

放送 毎週木曜日 21:30~21:45

ラジオNIKKEI

# 虎ノ門医学セミナー

～より良い地域連携医療をめざして～

企画・制作：虎の門病院・医師と団塊シニアの会  
提供：総合メディカル株式会社



よい医療は、よい経営から

総合メディカル株式会社

2016年9月8日放送

## 「酒さ様皮膚炎」

虎の門病院 皮膚科 部長  
林 伸和

虎の門病院皮膚科の林伸和と申します。本日は、酒皰<sup>しゅさきょう</sup>様皮膚炎についてお話しします。酒皰様皮膚炎は、長期間、顔面にステロイドを外用している患者に生じる酒皰に似た症状を言います。口のまわり、鼻唇溝のまわり、あご、頬などに紅斑と鱗屑<sup>りんせつ</sup>、時に痂<sup>か</sup>痂<sup>ひ</sup>を伴い、さらに瘰癧<sup>びそ</sup>様の毛包一致性の丘疹や膿疱を認めます。多くの場合かゆみがあり、時に強いほてり感、つっぱり感、ヒリヒリ感を訴えます。接触皮膚炎などで顔面に一時的に使用したステロイドを、症状が軽快しているにもかかわらず、いつまでも中止しないために生じます。顔面にアトピー性皮膚炎や接触皮膚炎などによる炎症症状があつて、治療のためにステロイドを外用している場合には起こりません。

### 酒皰様皮膚炎とは？

- 顔面にステロイドを外用している患者に生じる酒皰に似た症状
- 口囲、鼻唇溝の周り、顎、頬などに生じる紅斑と膿疱、丘疹などの症状で、痒みや、時に強いほてり感、ツッパリ感、ヒリヒリ感を訴える。
- ステロイドの外用歴がある。近年、タクロリムス外用でも生じることが報告されている。

酒皰<sup>しゅさきょう</sup>様皮膚炎で難しいところは、ステロイド外用が原因であるにもかかわらず、ステロイドを中止すると一時的に症状が悪化することです。特に女性の患者さんでは、悪化することが容認できずに、いつまでもステロイドを外用して症状を長引かせることになります。顔面が赤くなる疾患には、接触皮膚炎やアトピー性皮膚炎などの湿疹皮膚炎群以外にも、尋常性乾癬<sup>じんじょうせいかんせん</sup>のような炎症性角化症<sup>かつかしやう</sup>、全身性エリテマトーデスや皮膚筋炎などの膠原病<sup>こうげんびやう</sup>、

痤瘡や酒皰などの毛包視線系疾患など様々なものがあります。酒皰様皮膚炎は、その中でも医原性であるがゆえに特に注意が必要な疾患の一つです。

診断は、病歴と臨床症状で行います。ステロイド外用の既往があることに加え、酒皰様の顔面の紅斑や、痤瘡様の毛包一致性の丘疹、膿疱などの特徴的な臨床症状から診断します。

鑑別診断として、重要なものに、アトピー性皮膚炎と接触皮膚炎があります。

①成人型のアトピー性皮膚炎では、顔面や頸部、前胸部に鱗屑を伴う**びまん性**の紅斑を認めます。酒皰様皮膚炎とは異なり、頸部や背部などの**脂漏**部位以外にも症状があることが多く、通常毛包一致性の丘疹や膿疱は見られません。

成人型のアトピー性皮膚炎の典型例では、顔面に症状が強いため、ステロイドやタクロリムスなどの抗炎症作用のある薬剤を顔面に長期外用することになります。外用を中止すると悪化します。しかし、この症状を酒皰様皮膚炎と誤解して、ステロイド外用を中止して我慢していれば改善すると信じている患者さんがいらっしやいます。いわゆる脱ステロイド療法です。アトピー性皮膚炎に伴う炎症があるにもかかわらず、抗炎症作用のあるステロイドを中止すれば、悪化するの**は当然の結果**です。診断を迷う場合には、早期に皮膚科の専門医を受診することをお勧めします。

②もう一つの重要な鑑別診断として化粧品による接触皮膚炎があります。化粧品を塗布している顔面全体に紅斑を生じ、かゆみがあります。疑わしい化粧品をすべて中止して、ステロイド外用などによる治療に専念します。

症状が消失したのちに、パッチテストで原因となった化粧品を特定します。商品が異なっても、原因となった成分を含んでいれば、接触皮膚炎の症状が続くため、可能であれば原因となる成分まで特定するとよいでしょう。

パッチテストは、背中などにかぶれの原因となる成分を貼って、後日その反応を見る試験です。化粧水や保湿クリームなどは製品そのものを用いる **as is** のパッチテストでよいのですが、洗顔料など界面活性剤が入っていて刺激性の高いものは 100 倍に薄めて行います。また、マスカラなどはオープンパッチテストといって、外用するのみで閉鎖せずに検査します。判定は 48 時間後と 72 時間後に行います。ステロイド外

## 酒皰様皮膚炎の鑑別診断

- **アトピー性皮膚炎**
  - 顔面以外にも症状がみられる。
  - 毛包一致性の丘疹や膿疱は通常見られない。
  - アトピー素因があり、慢性の経過をとる。
- **接触皮膚炎(特に化粧品によるもの)**
  - 原因物質を塗布した部位に出現する。
  - 毛包一致性の丘疹や膿疱は通常見られない。
  - 原因物質を中止しないと軽快しない。
- **紅斑性酒皰**
  - いわゆる赤ら顔の症状をとる。
  - 安易にステロイド外用を行わない。
- **酒皰性痤瘡**
  - 酒皰様皮膚炎と鑑別は困難なことがある。
  - ステロイド外用歴がない。

用薬など一部のものでは、反応が遅延して現れることが多いため、可能であれば1週間にも再度判定をします。汗などで流れると判定が困難になるため、夏は避け、涼しい時期に行います。

パッチテストが行えない場合には、基礎化粧品から随時再開することや、頸部や肘窩<sup>ちゅうか</sup>などの目立たないところに連日塗布するなどの、使用試験で原因を見つけることもあります。原因となる化粧品を中止せずに、ステロイド外用で一時的な改善のみを求めた結果、酒皸様皮膚炎になってしまうことが多く、化粧品による難治性の接触皮膚炎の場合には、化粧品を中止することが大切です。

③酒皸様皮膚炎の言葉の由来となる酒皸も鑑別になります。酒皸は、顔面に紅斑のみを伴う紅斑性酒皸、紅斑に丘疹や膿疱を伴う酒皸性痤瘡、線維化をともなう鼻瘤<sup>びりゅう</sup>などに分類されます。

紅斑性酒皸は、いわゆる赤ら顔です。敏感肌で色々な化粧品などに刺激症状を訴えます。痒みを伴う紅斑があるために、接触皮膚炎と誤解されがちです。ステロイド外用を行った結果、酒皸様皮膚炎となっている例は少なくありません。酒皸様皮膚炎は治療により完治しますが、もともと紅斑性酒皸がある場合には、紅斑は難治で長い経過をとることになります。

酒皸性痤瘡は、赤ら顔に痤瘡様の症状を伴っています。痤瘡とは赤ら顔の有無と、面皰<sup>めんぽう</sup>という痤瘡の初期症状を伴うかどうかで鑑別できます。酒皸様皮膚炎の鑑別は、臨床的には区別はむづかしく、ステロイド外用剤の使用歴をもとに診断することになります。

治療についてお話しします。

治療の最も重要なポイントは、ステロイド外用剤の中止です。しかし、ステロイド外用剤を中止すると症状が一時的に悪化します。ステロイドを少しずつ弱くしたり、外用する回数を減らしたりする方法はうまくいきません。患者は、悪化した時点で、ステロイドをつかった元の治療に戻ってしまうからです。酒皸様皮膚炎の最もむづかしい点は、ここにあります。

酒皸様皮膚炎の治療を開始するに際しては、ステロイド外用を中止しないと軽快がのぞめないことと、特に中止後1から2週間で急激に悪化することを十分に説明し、患者の理解を得たうえで治療を開始します。

治療の基本は、ステロイド外用の中止と、テトラサイクリン系のドキシサイクリンやミノサイクリ

## 酒皸の治療

- 重要なポイント
  - 治療開始後、一時的な悪化がみられることを十分に説明しておくことが肝要です。
- 具体的な治療
  - ステロイド外用を中止する。
  - ドキシサイクリンあるいはミノサイクリンを内服する。
  - 外用は、ワセリンやヘパリン類似物質などの保湿剤のみとする。
  - 洗顔は通常通り洗顔料を用いて行うが、化粧品は中止し、症状が軽快してから再開する。

ンの内服です。ステロイド中止に伴って乾燥やヒリヒリ感などの訴えがあるため、保湿剤の外用を併用することもあります。酒皰様皮膚炎の皮膚は過敏になっています。洗顔は通常通り行っていただきますが、化粧は一時的な増悪を乗り越えるまで中止するように指導します。ほてりや瘙痒<sup>そうよう</sup>などの訴えが強い場合には、うちわであおいだり、冷やしたりするのがよいでしょう。

増悪期は薬剤中止後 1 から 2 週間です。それを過ぎれば、症状は急激に改善します。化粧も可能です。1 か月程度で症状は改善します。1 から 3 か月程度でドキシサイクリンやミノサイクリンの内服を終了します。

その後の経過は、ステロイドを外用する契機となった疾患によって変わります。接触皮膚炎があれば、原因となっている化粧品を特定し、使用させないことが重要です。原因を特定していないと、化粧を再開した際に、接触皮膚炎が再燃し、同じことの繰り返しになります。紅斑性酒皰であれば、赤ら顔に対する対処が必要です。現在のところ、紅斑性酒皰に有効な治療はないことから、刺激物の摂取や紫外線などの悪化因子を避ける指導を行います。

酒皰性痤瘡は、単なる赤ら顔やかぶれではありません。対症療法として行ったステロイド外用が適切に行われなかった結果生じるものです。本日は触れませんでした。ステロイドに代わるプロトピック外用剤でも酒さ様皮膚炎の報告があります。

このようなお話をすると、ステロイド外用剤は副作用が怖いので使用しないという方がいます。しかし、アトピー性皮膚炎や接触皮膚炎でステロイドを外用せずに治療するのは困難ですし、これらの症状の治療に適切にステロイドを外用していれば、酒さ様皮膚炎を起こすことはありません。顔面の紅斑に対する治療は安易に手を付けず、診断を明確にしてから治療を開始することが重要です。一方で、対症療法としてステロイド外用を行った場合には、経過を十分に観察し、改善が不十分であれば皮膚科専門医にご相談いただきたいと思えます。

## まとめ

- 酒皰性痤瘡の原因は、ステロイドの不適切な外用です。
- 顔面の紅斑に対する治療は、診断を明確にしてから開始します。
- ステロイド外用を行っても、改善が不十分であれば、早期に皮膚科専門医に相談ください。